

ほけんのまごから

5月感染症情報

突発性発疹 乳児 1名



乳児クラスでは咳・鼻水・発熱等の風邪症状のあるお子さんが多くみられました。

下痢症状が続くお子さんもいます。食事・睡眠・遊びが十分でない場合はお休みをしていきましょう。

さくら(4歳)・けやき(5歳)さん

6/23(金)は区の歯科衛生士さんによる歯科健康教室です。

歯垢の染め出しをするので記名した歯ブラシ持参・汚れても良い服で登園してください

おねがい

気管支拡張薬などの貼り薬を貼って登園する場合は、テープに記名をお願いします。登園時に職員へお伝えください。



虫よけについて



園の周りにも蚊の姿がちらほら…子どもの皮膚は弱く、刺された後にかきむしることで【とびひ】になることも多いです。家庭と園で虫よけ対策をしてお肌を守っていきましょう。

☆園での虫よけ対策☆

- ・お散歩前には「イカリジン」成分配合の虫よけを肌に塗ります。子どもへの使用制限がなく、服の上からでも効果のあるものです。虫よけを直接吸い込まない様に配慮して使用します。
- ・刺された後に皮膚トラブルが起きやすいお子さんや、必要な方は散歩時に虫よけ効果のあるスモックを着ていきます。ご家庭で薄手の長袖羽織りを用意していただいても構いません。(フードのないもの)
- ・窓付近・散歩車には吊り下げ式の虫よけを設置します。夕方は吊り下げ式の蚊取り線香を使用します。
- ・刺されてしまった場合はムヒを適宜使用します(乳児クラスはムヒベビー)

☆家庭でできること☆

- ・長ズボンをはく(速乾性のあるものがおススメ) 黒い服を避ける(白の10倍刺される研究結果が)
- ・お散歩前に薄手の長袖上着を用意
- ・虫よけをしてから登園する。保湿・塗り薬→日焼け止め→虫よけの順番で
- ・乳液等で肌を保湿する。バリア機能を高め肌荒れを予防します。
- ・足裏をアルコールで拭く(足裏の菌の種類が多い人は刺されやすい研究があります。アルコール過敏の人は×)
- ・症状が強い場合、かきむしって傷になった場合は受診をしましょう。(とびひなどの感染症を防ぎます)



☆おねがい☆

- ・虫よけパッチ、ムヒパッチ、虫よけリングは誤飲の危険があるため使用できません。
- ・保育園内で虫よけスプレー缶の使用はできません(他のお子さんが吸い込む危険がある為。人によっては咳や喘息を誘発することがあります)
- ・虫よけリングなどをつけて登園する場合は、リュックやロッカーに入れず保護者の方がお持ち帰りください。(誤飲や紛失を防ぎます)

水の事故に気を付けよう

暑い日が増えてくると水遊びを楽しむ機会が増えますね。子どもは数センチの水でも溺れてしまいます。安全に楽しく遊べるようにおさらいしましょう

こどもは静かに溺れます
人が溺れる時は音を立てるイメージがありますが、実際は静かに沈んでいきます(本能的溺水反射)
子どもだけでプールに入らない、川や水辺に行くときはライフジャケットをつける。
赤ちゃん用の首浮き輪や足浮き輪も重大事故が起きているのでやめましょう。



もし溺れているのを見つけたら...

- ・意識があるか確認する(意識の有無に関係なく水は吐かせない)
- ・意識がなければ助けをよぶ(119番依頼)
- ・同時に心臓マッサージと人工呼吸
- ・一番大切なことは事故の予防